

2020年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

ジェンダー社会科学専攻

一般入試・社会人特別入試・外国人留学生入試

外国語試験

試験日： 2020年2月4日(火)

試験時間： 9時30分～11時30分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を開けないこと。
2. 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと。
3. 全ての問いに解答しなさい。
4. 解答は、問題ごとに、別の答案用紙に記述しなさい。
それぞれの答案用紙に、氏名、受験番号のほか、
必ず自分が解答した問題の番号も記入すること。
5. とくに指示がない限り、日本語で解答すること。

問 1 以下の英文を読み、下線部①、②、③、④を日本語に訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

出典： Weisbrod, B.A. (1988) *The Nonprofit Economy*, Harvard University
Press, Cambridge, Massachusetts, pp. 43-44. より抜粋。

問2 ジェンダー平等と持続可能な開発について論じた次の英文を読み、(1)から(3)の設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

出典 : Leach, M., Mehta, L. and Prabhakaran, P. (2016) 'Sustainable development: A gendered pathways approach', in M. Leach (ed.) *Gender Equality and Sustainable Development*, Routledge, London and New York, pp. 11-13.より抜粋、一部改変。

- (1) 下線部①を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部②について、本文で述べられている具体例を全て挙げなさい。
- (3) 下線部③の *alternative pathways* について、本文の内容に即して説明しなさい。

2020年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

ジェンダー社会科学専攻

一般入試・社会人特別入試・外国人留学生入試
専 門 試 験

試 験 日： 2020年2月4日(火)

試 験 時 間： 13時00分～15時00分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を開けないこと。
2. 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと。
3. この問題冊子の全6問の中から2問選択して解答しなさい。
解答は、問題ごとに、別の答案用紙に記述しなさい。
それぞれの答案用紙に、氏名、受験番号のほか、
必ず自分が解答した問題の番号も記入すること。
4. とくに指示がない限り、日本語で解答すること。

問1 下記の文章を読み、(1)と(2)の問いに答えなさい。

日本では1年間に約3000人が子宮頸ガンで死亡しており、その数は増加傾向にある。子宮頸ガンは性交渉によるウィルス (Human Papiloma Virus, HPV) 感染に起因する病気である。最近開発された HPV ワクチンは、万能とはいえないが、相当の効果があることが確認されている。日本でも2013年に HPV ワクチンの定期接種が始まり、11~14歳の女子は公費で接種できるようになった。ところが、ワクチンの副反応(副作用)で重篤な健康被害を受けた旨の報告が続出したため、政府は積極的勧奨を中止した。さらにその後、ワクチン被害を訴える女性たちが国と製薬会社を相手取って損害賠償を求める裁判を起した。

ただし、厚生労働省のワクチン副反応検討部会によると、HPV ワクチン接種と接種後の有害事象との因果関係を示す科学的証拠は存在しないという。他方、将来的には、重篤な副作用発生の神経免疫学的なメカニズムが明らかになる可能性もある。つまり、ワクチンのリスクはまだ十分明らかにされていない。

現在、日本の HPV ワクチン接種率はピーク時の70%台から1%未満にまで激減している。子宮頸ガンの撲滅を掲げる医師団体はワクチン接種の積極的推進策の再開を強く求めているが、他方で慎重な立場の専門家もいる。何らかの対応が必要とされているにもかかわらず、政策は手詰まりの状態に陥っている。

この例のように、解決のためには科学の知見を必要とするが、しかし科学だけでは解決できないような問題のことを「トランス・サイエンス問題」という。科学だけでは解決できないというのは、そのような問題には科学的にまだ十分明らかにされていないリスクや不確実性が存在したり、または倫理・社会・法などの見地からも検討する必要がある場合もあるからである。このような問題の解決に取り組むためには、科学・科学技術と社会の関係を見直し、リスクや不確実性について社会としてはどのような態度を取るか、また場合により科学的論争で見過ごされがちな価値観に関わる論点についても検討する必要がある。

- (1) 上記の HPV ワクチン問題以外に、トランス・サイエンス問題にはどのような例があるか。具体例をひとつ挙げ、その問題がどのような意味でトランス・サイエンス問題と言えるのかについて説明しなさい。
- (2) (1)で挙げた問題に対してトランス・サイエンスの視点から取り組むためには、どのような枠組や留意点などが必要だろうか。あなたの考えを述べなさい。

問 2

以下の表は2000年と2017年における日本の65歳以上の者のいる世帯数および構成割合（世帯構造別）である。この表を参照しながら、(1)と(2)の問いに答えなさい。

- (1) 世帯構造の変化が高齢期の生活にどのような影響を与えるかを考察しなさい。
- (2) 高齢期の暮らしにおける経済および介護の課題について、公助、共助、自助の観点から、その解決の可能性について述べなさい。

表 65歳以上の者のいる世帯数および構成割合（世帯構造別）と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合

(千世帯)

	65歳以上の者のいる世帯数および構成割合					65歳以上の者のいる世帯数および構成割合の合計	全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合
	単独世帯	夫婦のみの世帯	親と未婚の子のみの世帯	三世帯世帯	その他の世帯		
2000年	3079	4234	2268	4141	1924	15646	34.4%
	19.7%	27.1%	14.5%	26.5%	12.3%	100.0%	
2017年	6274	7731	4734	2621	2427	23787	47.2%
	26.4%	32.5%	19.9%	11.0%	10.2%	100.0%	

出所) 内閣府(2019)『令和元年版高齢社会白書』p.9より作成

問3

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）はその評価報告書の中で将来の気候変動予測を示している。これはどのようなモデルを使って予測されているか、説明しなさい。

問 4

チャールズ・メリアムは『政治権力』（原著 1934 年、邦訳 1973 年）で、権力を集団の統治現象と捉えた上で、「物理的強制力」だけでなく、権力が自らを飾り立てて支持を集める手段も重要であるとし、「クレデンタ」と「ミランダ」の 2 つの概念でこれを説明した。「クレデンタ」は、信仰されるべきものことで、神からの信託、卓越したリーダーシップ、同意で表現された多数者の意思といったものに権力の成立が基づくことを指し、大衆の知性に訴えかける合理的な側面を持つ。他方、「ミランダ」は、称賛されるべきものことで、記念日や記念碑、音楽や芸術的デザイン、儀式、物語と歴史、大衆的示威行動などの形を取り、大衆の情緒に働きかける非合理的な側面を持つとされる。

任意の国家を取り上げ、「物理的強制力」「クレデンタ」「ミランダ」の 3 つの概念に即して、国家権力が多面的である様相を説明しなさい。

問 5

「女性」であるあなたが、ある研究テーマに関わって、「女性」に対してインタビュー調査を実施することになった……と仮定しましょう。その際に、「女性」であるあなたが「女性」に対してインタビュー調査を行うことから生じると考えられるメリットとデメリットの双方について論じてください。インタビュー調査の前提となる研究テーマやインタビュー手法等を具体的に設定したうえで論述を展開しても、そうした前提を設定せずに論述を展開しても、いずれでも構いません。ただし、「女性であること」の多様性とそこから派生する当事者性の問題に触れながら論述を展開することを必須条件とします。

問 6

2019年12月に *Global Gender Gap Report 2020* が公表された。そこに示されているグローバル・ジェンダー・ギャップ・インデックス (The Global Gender Gap Index : GGGI) は、世界経済フォーラム (WEF) が毎年発表する、経済、教育、健康、政治の4分野における各国の男女格差の大きさを国別に比較した指標である。それによると、日本はこれまでの最低順位だった2017年よりもさらに下がり、2019年は世界の153カ国の中で121位となった。下記の表は2019年の日本における4つの指標と世界平均値を示すものである。

	Rank	Score	Global average
Global Gender Gap Index	121	0.652	0.685
Economic participation and opportunity	115	0.598	0.582
Educational attainment	91	0.983	0.957
Health and survival	40	0.979	0.958
Political empowerment	144	0.049	0.241

出所) World Economic Forum (2019) *Global Gender Gap Report 2020*, p. 22, p. 201
より作成

- (1) GGGI が示す日本のジェンダー・ギャップの特徴は何か。
- (2) GGGI を使ってジェンダー平等の達成度を評価する方法のメリットとデメリットについて述べなさい。